

# 環境にやさしい省力化資材 「生分解性マルチ」について

## 1. ポリマルチを取り巻く課題

### (1) 廃プラ処理経費の負担

レジ袋の有料化等、政府は廃プラ削減・排出抑制の取り組みを強化しています。今後ますます廃プラ処理経費の上昇が見込まれます。



なんぎい

### (2) マルチの剥ぎ取り作業負担

圃場での剥ぎ取り作業は重労働であることに加え、近年は人手不足による作業員の確保が課題となっています。



課題解決資材  
として

## 2. 生分解性マルチの提案

(1) 使用後、鋤き込むことが可能であり、鋤き込んだ後、微生物の働きにより、最終的に水と二酸化炭素に分解される資材です。

(2) そのため、圃場での重労働であるマルチの剥ぎ取り作業は不要となり、かつ、廃プラ処理が不要となる『省力化・環境にやさしい資材』です。



※画像は、農林水産省生産局  
生分解性マルチ活用事例より

※掲載内容の無断使用・転載を禁じます。

### 3. 生分解性マルチの課題について

- (1) 一般のポリマルチと比較して製品単価が約3～4倍と高価になります。
- (2) 作物(作型)によって求められる分解速度は異なりますが、圃場の土壌条件や自然条件等により早期分解や分解遅延が発生する場合があります。
- (3) 展張時、粘りに欠けるため、ポリマルチに比べ縦方向に裂け易い特徴があります。

### 4. 生分解性マルチの普及拡大に向けて

- (1) 現状、製品単価だけの比較ではポリマルチに対抗出来ませんが、「剥ぎ取り労賃」や「廃プラ処理経費」を含むトータルコストで比較するとほぼ同等のコストとなります。
- (2) R2年度は生分解性マルチの性能確認として、1JAで1作物につき3本迄となりますが栽培試験用マルチの提供を行っております。  
なお、別途、企画書と報告書の提出が必要となります。

【ポリマルチと生分解性マルチの価格比較】

(例) とうもろこし

(単位: 円/10a)

	使用本数	資材費	回収作業費等	処分費	合計
ポリマルチ	3.5本	6,370	14,454	1,300	22,124
生分解性マルチ		19,460			19,460

※使用本数 200m、回収作業費は作物別作業時間と単価(農水省)で試算

※処理費は 50 円/kg で試算

【ABA(農業用生分解性資材普及会)資料より抜粋】

### 5. 生分解性マルチに適している作物について

作物	特徴
トウモロコシ	面倒なマルチ剥ぎ取り作業が省けます。
サトイモ	マルチを剥がなくても土寄せができます。
さつまいも	マルチを剥がなくてもツル刈り機や収穫機が使用できます。
エダマメ	マルチ切れや絡みを気にせず収穫できます。

### 6. 取扱上の注意点について

- (1) 保管は高温多湿、直射日光を避け、包装資材は使用直前に開封してください。
- (2) 展張後少し縮むことがあります。  
展張の際には引っ張りすぎないようにご注意ください。
- (3) 収穫後、すき込む際は飛散防止のため2回以上の鋤き込みをお願いします。
- (4) 土中で完全に分解されるには、半年～1年程度必要となります。

(園芸部 園芸振興課)

※掲載内容の無断使用・転載を禁じます。